

## 大司教新年メッセージ用語解説

### ■シノドス（※注1）

バチカンで第二バチカン公会議後から3〜4年毎に開催される世界代表司教会議を指す名詞。語源はギリシア語から由来し「ともに歩む」という意味から、全世界の司教が、教皇と「ともに歩む」ための会議名として用いられるようになった。

### ■シノダリティ（シノドス性 ※注2）

「ともに歩むための実践」という意味を持つ名詞。シノドスの歩みの結果としての到着点でもある。

### ■シノドス的（※注3）

シノダリティのある態度や振る舞いを意味することから「これから教会を生きるための態度」を示す。

教皇フランシスコは、世界代表司教会議設立50周年記念式典における演説（2015年）のなかで「シノドス的」な教会とは、耳

## 仙台教区司教に ガクタン・エドガル神父 (淳心会)が任命される



(GACUTAN, Edgar) 神父 (57歳) を任命すると発表した。

2021年12月8日、教皇フランシスコはこれまで空位が続いていた仙台教区司教として、淳心会のガクタン・エドガル

を傾ける教会、信徒、司祭・助祭、修道者、司教、そして教皇が、それぞれ相互に耳を傾け合い、また全員が真理の霊に耳を傾け、霊がわたしたちに告げていることを理解するもの」と述べている。

### ■きょうどう宣教司牧（※注4）

前田万葉大司教の「2018年新再宣教メッセージ」の中で、「共同宣教司牧」の「共同」をひらがな表記の「きょうどう」へ変更する趣旨の説明がなされた。「きょうどう」に使われる漢字は「共同」をはじめ「協働」「協同」「共働」などがある。「共に同じ」もしくは「同等」のように取られがちだったことから、それぞれが異なる役割を担い合い尊重し合う连带活動を目指すことから、ひらがなの「きょうどう」と表記することとした。

### ■セブンスステップ（※注5）

聖書の分かち合い方法で、南アフリカのルムコ研究所が提案した7段階のプログラム（①主をお招きする、②聖書を読む、③聖書の箇所を味わう、④沈黙を守る、⑤心の中で聞いたことを分かち合う、⑥互いに探し求める、⑦ともに祈る）。

具体的には、聖書の箇所を5人前後の小グループで読み、味わい、分かち合う。その際に主イエスの臨在を最初に強く意識して始めていくところが大切とされる。分かち合いの最後に各自の自発的な祈りで締めくく。

Asian Integral Pastoral Approachの略称。FABC（アジア司教協議会連盟）の中に、アジアの教会のビジョンに向けて、信者のトレーニングを促進する必要性に応えるために設立された組織。教会の新しいあり方、特に教会と世界でのミッションを遂行するために信徒を訓練することを目的としている。信徒を訓練するための分かち合いの手段として「セブンスステップ」を推奨している。

## 世界代表司教会議 2021 - 2023

テーマ「ともに歩む [=シノドス的] 教会のため——交わり、参加、そして宣教」

# 「シノドス」について ～言葉にこめられた2つの意味～



「シノドス（シノドウス）」とは、もともとギリシャ語由来のラテン語で「集会」を意味する言葉ですが、主に教区単位の「教会会議」を示す用語として、古代以来使われてきました（※『新カトリック大辞典』『教会会議』『世界代表司教会議』参照）。

1965年、教皇パウロ6世はこの言葉に新しい意味をもたせ、教皇の諮問に答える「協議集会」として、世界各地の司教の代表を招集することに決めました（自発教令『アポストリカ・ソリキトゥード』）。その年に閉幕する第二バチカン公会議（62〜65年）の成果を継続させていきたいという思いから来ています。

67年、第一回目の「シノドス」が行われ、日本の司教団はこれを「世界代表司教会議」と翻訳してきました。「シノドス」はこのようにして使われてきた用語ですが、今回、教皇フランシスコはこの言葉の「ともに歩む」というギリシャ語の元々の意味に焦点を当てたいと望まれました。そこで、教会の本来のあり方を振り返り、新たに歩み始める起点となることを希望して「ともに歩む」「シノドス的」教会のため」をテーマとする世界代表司教会議を2023年に開催することを決定されました。本会議の準備として、すべての教区の信者に「わたしたちはシノドスを生きて来たか」を振り返ることを教皇は呼びかけられています。

会議の名称としての「シノドス」と教会の本質である

るシノドス（ともに歩む）」が混在する準備文書がバチカンの準備事務局から送られ、そこに何度も出てくる「シノドス」の語の意味を混乱してしまう状況があるようです。そこで、今回の『大阪カトリック時報』で、上記の用語解説を掲載することにしました。

「ともに歩む教会」を振り返り、分かち合っていたために、バチカンの準備事務局から10の質問項目が提示され、教区からは各小教区宛に回答のお願いの文書が配布されました。個人で振り返り、いろいろなグループで分かち合い、その要点をまとめて報告していただきたいと思います。

バチカンの準備事務局からは、ふだん声を聞いてもらえていない人々からの声を聞くこと、教会から

離れている人たちの声も聴くようにとの指示があります。そのため、小教区評議会の議題として回答するのではなく、分かち合いをしてください。いろいろな奉仕グループからも声を吸い上げてください。振り返りの分かち合い自体が「ともに歩む教会」の実践、というわけです。

集まってくる回答を教区のシノドス担当チームでさらにまとめて、その報告書を司教団に提出します。皆様の回答の締め切りは、2022年4月30日（土）です（当初より4か月延長されました）。たくさんのお待ちしています。

（シノドス担当チーム）

シノドス質問票  
ダウンロード



## シノドスのための祈り（※注7）

アドスムス サンクテ スピリトゥス  
Adsumus Sancte Spiritus

（聖霊よ、わたしたちはあなたの前に立っています）

聖霊よ、わたしたちはあなたの前に立ち、あなたのみ名によって集います。

わたしたちのもとに来て、とどまり、一人ひとりの心にお住まいください。

わたしたちに進むべき道を教え、どのように歩めばよいか示してください。

弱く、罪深いわたしたちが、一致を乱さないよう支えてください。

無知によって誤った道に引き込まれず、偏見に惑わされないよう導いてください。

あなたのうちに一致を見いだすことができますように。わたしたちが永遠のいのちへの旅を続け、真理と正義の道を迷わずに歩むことができますように。

このすべてを、いっどこにおいても働いておられるあなたに願います。御父と御子の交わりの中で、世々としえに。アーメン。

世界こども助け合いの日  
2022年1月30日

わかち合うところは  
たからもの

世界中の子どもたちのために  
お祈りと献金をお願いいたします。

教皇庁宣教事業 児童福祉会

